## 釜石市議会議長 佐々木 義 昭 様

民生常任委員会 報告者 千 葉 榮

## 「行政視察報告書」

民生常任委員会による行政視察を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

## 1 【視察項目】

- ① 高知県 高知市 「いきいき百歳体操」について
- ② 高知県 南国市 「津波避難タワー」

「消防団活動と防災」について

「地震に強い都市づくり」について

③ 岡山県 備前市 「小中学校におけるタブレット端末の導入」について

#### 2 【視察日程】

「平成30年1月22日(月)~ 平成30年1月25日(木)」

- ① 平成30年1月23日(火) 高知県 高知市
- ② 平成30年1月23日(火) 高知県 南国市
- ③ 平成30年1月24日(水) 岡山県 備前市
- ④ 平成30年1月22・25日は、移動日

#### 3 【参加者】

· 民生常任委員会(6名)

古川 愛明委員長 千葉 榮副委員長

松 坂 喜 史 委員 山 﨑 長 栄 委員

菊池 孝委員 大林 正英委員

- ・市長部局(危機管理課)千葉 博之 課長
- ・議会事務局 小原 圭子 事務局次長

#### 4 【研修概要】

(1) 高知県 高知市 平成 30 年 1 月 23 日 (火) 9 時 00 分 ~ 11 時 30 分 「概 要」

高知市の概要 人口 332,059人、高知市は四国南部のほぼ中央に位置し、西方と北方には山岳が巡り、東方には肥沃な美田が続き、南方は浦戸湾を経て太平洋に臨んでいる。土地は総体的に低く、東・南部の湿田地帯は海抜ー1.0m、市中心部の県庁前が、3.0m、筆山117.9m、正蓮寺330~350m、北方山岳地帯が、400~600mという現状で、約7K㎡がゼロメートル地帯である。雨量が多く、殊に毎年夏から秋にかけて台風の襲来がたびたびあるが、北に四国山地、南に黒潮の暖流が巡る南国的な明るい都市である。

#### 視察先として選定した理由

平成 29 年度より当市において、介護予防に効果があるとして「いきいき百歳体操」を 導入している。その体操の発祥の市である高知市を視察し、立ち上げた経緯と現時点 での課題などをお聞きするため。

### 「いきいき百歳体操」について

## 内 容

研修に先立ち、高知市議会事務局池畠次長の歓迎の挨拶があり、「南海トラフ地震」の対策と「地方創生」の大きな事業、二つの取り組みについての話があった。特に南海トラフ地震は、この30年以内に、70%から80%の確率で起こると言われている事から最重点課題として取り組んでいる旨の説明後、今回、視察の最重点項目である、いきいき百歳体操について、高齢者支援課介護予防支援担当の関田係長・小川主任から説明を受けた。

いきいき百歳体操の取り組みは、平成14年からで、平成12年から介護保険制度が始まり、そこから介護保険を受けたい人が、うなぎのぼりに増えていった。新規認定者の7割が要支援、要介護1の比較的軽い人達で介護は受けたくない人達だった。そこで、介護予防に取り組もうとし、その方法として選んだのが、「いきいき百歳体操」であり、介護予防を目的に開発された体操である。この体操は重りを使った筋力体操で、アメリカの国立老化研究所の運動手引き書に準拠して、どの年齢でも筋力運動により筋力を維持して再びつけることができるという事で開発されたものだ。最初4回だけは行政が手伝い、これが「いきいき百歳体操」の普及につながっている。始めてからの変化で一番多いのが、体力がついた、階段の上がり下がりが楽になった、友人、知人ができ、気持ちが明るくなったという声が多い。実施個所数の推移は、最初は2会場で始めたが、現在360会場で行われている等々の説明あった。その後、高齢者が実際に活動されている会場(栄田公民館)に出向し、体操を見学した。

#### ≪ 主な質疑応答 ≫

Q:体操に参加すると、1 ポイント、年間 40 ポイントで 1,000 円の商品券が貰えるということだが、市内の商店主との契約などは行われているのか。

A:特にしていない。一般的な商品券で全国共通のものである。

Q:予算は市から出ているのか。年間どのくらいの金額なのか。

A:健康づくりの予算で言うと、それほど多くないが、300万円弱である。

#### ≪ 所 感 ≫

高知市は、全国でも「いきいき百歳体操」の発祥市であり、この制度を始めてから、 高齢者の筋力トレーニングの効果は抜群のため年々会員が増えている。その一方で、 一人では続かないことや市職員が毎回指導に行くことは不可能であるなどの課題もあ るとのこと。

そこで、高齢者の身近な場所に少なくとも週に1回、住民だけで運営される体操会場が必要であり、効果が出てくる3ヶ月間は続けられるよう取り組んでいるとのこと。

当市においても、平成28年から始めた、「健康チャレンジポイント事業」で市民が健康づくりをしやすい機運の醸成、健康づくりと健康的な生活習慣の定着を促し、健康づくりが人と人、そして、街を幸せにすることを理念として、健康づくりができるよう私達議員もいろいろ議論を交わし、民生常任委員として、本研修を活かしていきたいと思う。

(2) 高知県 南国市 平成 30 年 1 月 23 日 (火) 14 時 30 分 ~ 16 時 50 分 「概 要」

南国市の概要 人口 47,776人、南国市は、高知県の中央部に位置し、紀元前2世紀頃の土佐の稲作の黎明の地である。また、高知自動車道南国IC、高知龍馬空港を有し、高知空港に隣接するなど、優れたアクセス機能を持っており、まさに高知県の交通拠点の町である。

土佐の稲作の発祥の地でもあり、農業も盛んで、高知大学農学部などが立地する 学園都市である。

## 視察先として選定した理由

高知県周辺は南海トラフ巨大地震の確率が最も高く、今後の防災計画などにいろいろな課題や対策をとっていることから、東日本大震災を経験した当市もぜひ参考にさせてもらいたいと考えるため。

#### ①「消防団活動と防災」について

## 内 容

開会にあたり、南国市議会の岡崎純男議長から、歓迎のあいさつを頂いた。その後、 進行を議会事務局の秋田局長が担当し、研修についての説明があった。

そして「消防団活動と防災」について、担当者である、消防本部総務課松村消防団係 長から説明を受けた。

南国市消防団について、昭和34年10月1日発足、消防団の定数は344名、実員338名、うち女性団員は12名。充足率は98.2%、就業形態は被用者174名、自営業者69名、家族従事者45名、その他50名。団員年齢層は均45.1歳。在職団員数12.6年で30歳を超えてからの入団が多い。また、東日本大震災の折り、支援に出動した団員からの要望で、災害時に重機が使えることが必要として、建設関係に携わっている団員が災害時、重機機動部隊として活動するため、平成25年度に南国市消防団機動部隊を発足した。

#### ≪ 主な質疑応答 ≫

Q:消防団の条例定数は人口の割に少ないように感じるが。

A: 高知市が人口30万人に対して団員定数が900名となっており、当市の人口が47.000 人に対し、団員数が344人は妥当だと思う。

Q:釜石市は、サラリーマンの団員が多く、初動体制が問題になっているが、南国市の サラリーマン化については、どのようになっているか。

A:南国市についても、51%がサラリーマンである。市内の山間部では団員不足があり、先ほども話をしていた、南国市消防団災害支援隊がサポートする形となっている。

#### ≪ 所 感 ≫

南国市では、東日本大震災に消防団員 27 名が現地(宮城県岩沼市)に赴き捜索活動に参加し、その際、災害現場での重機等の必要性を強く感じたことから、平成 25 年 7 月に消防団員の中から建設・土木に従事している団員が保有している重機等を提供し、災害時に活動する消防団機動部隊を発足するなど、近い将来、80%の確率で来ると言われている南海トラフについて、危機感を持って対応していると感じた。当市では、災害時での重機等の必要性については、建設協会と協定を結んでいるが、活動マニュアルの作成(重機等に係る手当・活動中の怪我等の取り扱い)について、民生常任委員として、今後どのような取り扱いにするか、考える必要があると感じた。

②「地震に強い都市づくり」について

「津波避難タワー」

## 内 容

次に、「地震に強い都市づくり」についてと「津波避難タワー」について、南国市危機管理課中島課長から説明を受けた。

想定外の津波と言われた東日本大震災の教訓から、平成24年12月に示された高知県の最新の津波想定高を受け、南国市では「高台へ逃げる・なければ高台を造る」という「命山構想」を基本に、津波避難タワー建設の計画を進め、平成26年3月までに沿岸地域に津波避難タワー建設した。また、完成した津波避難タワー・避難路・避難場所などの各施設を視察し、現在の南国市における防災対策の現状について研修した。

#### ≪ 主な質疑応答 ≫

Q:津波避難タワーは耐久性、高さともに安全性に限界あると思うが、どのくらいの規模の津波を想定して建設しているのか。

A:3・11 を受け、現在の高知県に影響のある4ケースを重ね合わせて想定されたもので、想定できる最大クラスのもの背後地には高台があれば高台避難、無ければ 津波避難タワーへ避難することとしている。

Q:津波避難タワーを整備する際に基準を設けているのか。

A:命山構想、5分で避難、600mおきに津波避難タワーを整備している。

Q:県内との応援協定は結んでいるのか。

A:結んでいるが、そう言っても対応できるかわからない。 南国市・香南市・香美市、この3市は昔から、よく繋がりがあるので、応援はある かと思うが、災害時にはどうなるのか分からない。

Q:自主防災の組織率は、釜石市は50%位ですが、南国市は、100%近く自主的に活動をしていると認識しているが、いかがか。

A: 一ヶ所だけ、県営アパートだけが結成していないが、火災訓練等は行っている。

#### ≪ 所 感 ≫

当市でも、想定外の津波と言われた東日本大震災の教訓から、地震、津波に強い都市づくり・津波避難等について、現在も取り組んでいるところだが、民生常任委員会として、実際に津波避難タワーを視察して、津波避難タワーを含めた、各防災施設の運

営、備品補充、避難訓練などの話しを聞き、実際に災害が起きた時の被害をできるだけ 小さくすることを目標にしているなど、危機管理について、強く感じられた。また、大きなタワーを目の前にすると、地震発生後すぐにここへ逃げれば命が助かるという安 心感が得られると同時に、地震や津波及び災害に備えて、釜石市民が常に意識しておくべき対策が何かということを考えさせられた研修だった。

(3) 岡山県 備前市 平成 30 年 1 月 24 日 (水) 14 時 00 分 ~ 16 時 00 分 「概 要」

備前市の概要 人口 35,610人、中央部の備前地域は、耐火煉瓦の街として栄えてきたが、日本遺産に認定された備前焼や旧閑谷学校などの文化遺産に恵まれ、伝統、歴史、文化に触れることができる市である。また、2005年の平成の備前市・日生町・吉永町の1市2町の大合併時には45,000人の人口が、現在35,000人となり人口減少が続き近々の課題となっている。

#### 視察先として選定した理由

当市において、今後の小中学校におけるICT活用推進事業を進めるにあたり、小中学校全学年の児童生徒に一台ずつのタブレット端末を無償で貸し出すという施策を取り入れた教育の先進地である備前市の状況をお聞きするため。

「小中学校におけるタブレット端末の導入」について

## 内 容

開会にあたり、備前市議会の鵜川晃匠議長から、歓迎のあいさつを頂いた。その後、 進行を議会事務局の入江議会事務局次長が担当し、研修の内容についての説明があっ た。「備前市 ICT 活用推進のあゆみについて」についてとして、担当者である備前市教 育委員会・学校教育課の行正課長代理、瀧口主任から説明を受けた。

備前市には、小学校が12校、中学校が5校あるが、平成26年12月に、全学年一人一台のタブレットPC端末が導入された。0Sはウインドウズである。特別教室を含む全教室に無線LAN環境が整備され、どの教室でもタブレットPCを用いた授業ができる。また、プログラミング教育を行う上では、タブレットPC、またはノート・デスクトップPCが必要だが、様々なプログラミング教育の教材がある中で、概ね、どの教材を用いても、プログラミング教育の実践ができるようになっている。一方で、アプリのインストールやサイトへの接続については市教委によりフィルタリング設定がされているため、実践の上ではフィルタリング解除の申請が必要となる。この辺をスムーズに行うことのできる仕組みを作ることが、プログラミング教育実施の上では必要となってくると考えられる。

#### ≪ 主な質疑応答 ≫

Q: 導入する場合、先生方も不安があったということが分かった。児童生徒数も多くないと思うが、どういうやり方をしているのか。

A:人数の少なさは良し悪しになる。子供たちの中には対話のある授業が望ましい。少ないと人間関係が決まってしまい対話を生むのが難しい。

Q: 導入には、保護者は、どう思われたのか。

A: 広報誌などを通じて、情報を提供する努力はしている。見た目的には先進的なことを をしているなというイメージを持っていただいた。

## ≪ 所 感 ≫

備前市は、タブレットPC端末、大規模導入にあたって、確かに機器の活用の効果はあったものの、関わる先生も千差万別、中にはPC嫌いの先生も関わる事による負担感が起きた。こういった負担感をどのようにするかは教育委員会の力、外からの力も必要に感じた。

当市においても、将来的には導入の方向になると思うが、まず、その前に、生徒に指導する先生方の意識改革も必要と感じた。また、今後、プログラミング教育を実施できるよう、民生常任委員も色々議論を交わし、今回の研修を生かして行きたいと思う。

#### 5 【その他】

別添、写真参照

# 高知市



高知市議会にて



高知市「いきいき百歳体操」会場にて

## 南国市



津波防災タワーにて



津波防災タワーの備蓄風景

# 備前市



備前市議会にて

